

4月5月

一般健診受診者様 限定!

早期受診キャンペーン

～腹部超音波検査を受けてみませんか?～

- 対象 : 一般健診をご受診の方
 受診期間 : 2023年4月1日～5月31日
 申し込み : 不要 ※受診の際に一緒に検査させていただきます。
 追加料金 : なし (通常6,600円相当)

一般健診には腹部エコー検査
 (腹部超音波検査)がありません。

腹部エコーは肝臓や胆のう、膵臓、
 脾臓、腎臓、腹部大動脈などの
 病変を調べられる大変有用な検査です。

身体検査や採血などでは分からない
臓器の動きや肥大、腫瘍や結石など
 の異常を発見できます。

多くの皆様がオプションとして
 追加している人気の検査を、
 期間限定で無料で提供いたします!



ご来院をお待ちしています!

- ※腹部エコーは、人間ドック、付加健診対象者(40,50歳)には基本項目として含まれています。
- ※検査不要の方は、健診当日受付にてお申し出ください。
- ※協会けんぽ被保険者の方が対象となります。対象外の方が受診できる生活習慣予防健診コース(一般健診と同等の検査コース)には適用されません。

24時間
 WEB予約

協会けんぽ
 専用予約画面



柏健診クリニック

TEL 0120-15-4119

〒277-0005 千葉県柏市柏4-5-22

腹部エコーでこんなことが分かります！

体の表面にプローブをあてて体内に超音波を発信し、その反射を利用して体の中を画像化する検査です。肝臓、胆のう、膵臓、脾臓、腎臓などの病変の有無を調べます。

主な所見

胆のうポリープ 胆のう内にできる小さな突起物がポリープです。多くがコレステロールポリープで、**胆のう壁が変化したものではなく心配いりません**。ただし、**大きさが10mmを超えると詳しい検査が必要になることがあります**。

胆のう結石 胆汁中に含まれるコレステロールやビリルビンなどの成分で石が形成されます。無症状のことが多く、**症状がなければ治療は不要です**。

胆のう腺筋腫症 胆のうの壁が厚くなる良性の疾患です。胆のう結石を合併することがあります。原因は不明ですが、**症状がなければ治療は不要です**。

のう胞 肝臓、膵臓、腎臓、脾臓などにできた袋状組織で、中には液体成分が含まれます。無症状で基本的に心配ないものですが、のう胞の壁や内部の状態の変化により**精密検査が必要になることがあります**。

脂肪肝 脂肪が溜まった肝細胞が増えた状態です。過食、多飲などが原因となります。また、糖尿病にしばしば合併します。アルコールに起因しない脂肪肝でも、数パーセントは肝硬変に進展する可能性があります。さらに確率は高くはありませんが、その一部は肝がんを発症することさえあります。ただし、**脂肪肝には肥満（内臓肥満）、高血圧、糖尿病、脂質異常症等を伴うことが多く、これらを改善し心・脳血管障害、慢性腎臓病等を併発しない様にするのが大切です**。

肝血管腫 皮膚にみられる「あざ」と同様に、血管が増殖してできた腫瘍です。**大きさによっては精密検査が必要なこともあります**。変化がない場合でも経過観察を受けてください。

腎結石 腎臓の内部にできた結石のことです。結石が腎臓から尿管に移動し、尿の通過障害を起こすと、血尿や激しい痛みが起きます。**痛みがなく、腎機能に障害がなければ問題ありません**。

副脾 脾臓の隣に存在する小さな脾臓組織で、**異常なものではありません**。

注意

● 腹部超音波検査の“描出不良”、“不明”について

臓器の描出が不十分という意味で、肥満や痩せ、手術後の変化などで臓器の描出が不良になることがあり、手術による切除が不明な時などには“描出不明”とすることがあります。特に膵臓は周囲をガスや液体を含む胃、小腸、大腸等消化管に囲まれているため、腹部超音波検査の中で描出し難い臓器のひとつです。全体が充分観察出来る確率は男性で7.1%、女性で27.3%という報告があります。経過観察あるいは再検と判定します。症状があったり、ご心配な方は消化器内科でご相談ください。

⚠️ 脂肪肝はとても多い病態です ⚠️

肝機能障害を解消するためのアクションプラン

1. 適度な飲酒量を守り、休肝日をつくる
2. 運動習慣を身につけ、肥満を予防・解消する
3. 肝臓の機能回復に不可欠な、良質なたんぱく質をとる
4. 野菜・海藻・果物でビタミン、ミネラルを十分にとる



脂肪肝の方は…

脂っこいものを減らし、野菜中心の食生活を心がけましょう。飲酒後のラーメン、お茶漬けはカロリーや塩分のとり過ぎにつながるため避けましょう。

お酒を飲む方は…

男性では1日あたり酒2.5合以上の摂取で心疾患、脳梗塞、がん、消化器疾患、糖尿病、アルコール依存等のリスクが増加し、死亡率が高くなるという調査結果があります。反対に男性では酒1.7合、女性では酒0.85合未満の摂取では、虚血性心疾患、脳梗塞のリスクが低下し死亡率が低下するとされています。ただし、これ以下の量でも血圧は上昇傾向を示すようで高血圧、脳出血とクモ膜下出血による死亡が上昇するとされています。